

2019年度事業報告書
2019年4月1日から2020年3月31日まで

特定非営利活動法人 Colorbath

1 事業の成果

2019年度は、国際交流事業の実施にあたりインターネットテレビ電話を使用したWeb交流事業として、行政から事業を委託実施も行い、公的な事業貢献も果たすことができた。スタディツアー事業においては、独立行政法人国際協力機構（JICA）とも連携し安全面の配慮を行いつつ、アフリカマラウイでの実施を行うことができ、事業拡大のきっかけを得ることができた。また、留学生受け入れ事業及びスポーツ事業については、留学生と日本人の交流を深める場として、イベントの開催やコミュニティづくりを行い、留学生の背景や事情を国内に広めることができた。民間企業や地方行政、学校などの他セクターと連携して行うことにより、リアルな海外事情を知り、多様な価値観や考え方を共有にふれる機会を提供することができた。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の 実施日時 (B)当該事業の 実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象 者の範囲 (E)人数	事業費の金額（単位： 千円）
① 国際交流事業	徳島県の小学校にて、ネパールとつながるWeb交流活動／グローバルプログラムを実施。ネパールの生徒を日本に招聘しての直接交流を行った。 また、大阪市都島区グローバル人材育成推進事業を事業委託し実施した。	(A) 11月11日～18日、 8月～11月 (B) 徳島県上板町高志小学校、 大阪市都島区 (C) 4名	(D) 学校関係者、教職員、保護者、生徒 (E) 計300名	990
	ネパールの農村地域における貧困地域の支援のために、コーヒー産業で雇用創出を目指した事業として、専門家派遣を行った。	(A) 7月～2月 (B) ネパール (C) 2名	(D) 農家 (E) 10名	1000
② フィールドワーク事業	アフリカのマラウイ共和国へのフィールドワークを実施した。安全面はJICA協力、現地ではNPO法人ISAPHと連携しホームステイも行った。	(A) 9月 (B) マラウイ共和国 (C) 3名	(D) 農家、病院、現地NGO (E) 100名	1100
	ムジンバ県南部病院とも連	(A) 8～9月	(D) 農家、病院、現	53

	携し、太陽光を利用したソーラーボイラープロジェクトも開始した。(マラウイにおいて、太陽光でお湯を沸かすことのできるソーラーボイラーの普及検証)	(B)マラウイ共和国 (C)2名	地 NGO (E)100名	
③留学生受け入れ事業	提携する学校の調査及び留学生の生活状況のヒアリングとサポートを行った	(A) 通年 (B) 全国及びネパール (C)2名	(D)留学希望者、受け入れ教育機関 (E)80名	200
④スポーツ交流事業	テコンドーネパール代表選手、コーチを日本に招聘して強化合宿を支援した。大東文化大学の協力を得て合同練習を実施した。	(A) 10～11月 (B)ネパール、東京 (C)2名	(D)ネパールオリンピック協会の指導者及びスポーツ選手、学校の生徒 (E)50名	400

(2) その他の事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の実施日時 (B)当該事業の実施場所 (C)従事者の人数	事業費の金額(単位:千円)
実施無し			

(備考)

- 1 2は、(1)には特定非営利活動に係る事業、(2)にはその他の事業について区分を明らかにして記載する。
- 2 2(2)には、定款上「その他の事業」に関する事項を定めているものの、当該事業年度にその他の事業を実施しなかった場合、「実施しなかった」と記載する。

2019年度の事業報告書（詳細）

2019年4月1日から2020年3月31日まで

特定非営利活動法人 Colorbath

1 事業の成果

2019年度は、これまで実施してきたインターネットテレビ電話を使用したWeb交流事業やスタディツアー事業などの国際交流事業の功績が認められ、行政連携や助成事業としての活動として展開することができた。この成果は、他地域への展開を拓げるきっかけになると期待でき、次年度以降の活動展開にも大きく貢献していくと考える。また、スポーツ交流事業ではネパールの選手を日本に招聘し、スポーツを通じた人材育成に貢献し、国際交流の機会を提供した。その他の事業としても、官民連携を行いながらコーヒー事業やソーラーボイラー事業などの幅広い事業展開を行うことができた。

2 事業内容

特定非営利活動に係る事業

(1) 国際交流事業

①令和元年度都島区グローバル人材育成事業

大阪府大阪市の都島区が公募した「グローバル人材育成事業」に採択され、事業全体のコーディネーターや企画、参加者の募集、小学生対象としたイベントの開催や区内の中学校と連携したWeb交流プログラム運営を行った。

(ア) 小学生英語体験活動について

外国人講師との簡単な英語を用いた直接交流を通して、英語を使うことや外国の人と接する楽しさを実感し、世界に対する興味・関心やWTCを高めるプログラムを提供。プログラムについては生徒の学習習熟度や学年を考慮し、保護者も参加できるゲーム・ワークを提供し、親子で楽しめる運営を行った。

■概要

日時	2019年8月24日（土）14:00~16:00
場所	都島区役所 3階会議室
参加者・人数	78名 小学1年生～6年生の児童（45名）、保護者（33名）
交流内容	・プログラム説明 ・外国人講師による紹介セッション ・英語を使った歌やゲーム <2つのグループに分かれての活動> ・挨拶のデモンストレーション ・自己紹介ワーク ・じゃんけん大会 ・ビンゴ大会 ・外国人講師による母国の紹介
告知方法	・チラシを制作し、各学校にクラス人数分送付

(イ) 中学生 Web 交流活動について

都島区内の 5 中学校に対して、参加者を募り、日本の生徒とアジア(ネパール)・アフリカ(マラウイ)の生徒をインターネットでつなぐ同世代同士の異文化 Web 交流会を実施。事前学習会で文化の違い・予測される意味解釈の違いを学習し、Web 交流 2 回で実践から意味解釈の違いを体験・自省する活動を行い、海外とのつながりがこれまでになく、英語で会話することに自信のない生徒でも気軽に楽しく国際交流ができるプログラム内容を提供した。

■実施スケジュール

学校名	都島中学校	高倉中学校	桜宮中学校	淀川中学校	友渕中学校
交流国	ネパール	マラウイ	マラウイ	ネパール	ネパール
事前学習会	10月31日 (木)	11月18日 (月)	10月10日 (木)	11月18日 (月)	10月11日 (金)
Web 交流①	12月2日 (月)	12月11日 (水)	11月20日 (水)	11月25日 (月)	12月4日 (水)
Web 交流②	12月4日 (水)	12月12日 (木)	11月29日 (金)	12月2日 (月)	12月18日 (水)

■担当者・参加者

学校名	都島	高倉	桜宮	淀川	友渕
担当教諭	中田先生	塩見先生 原田先生	田中先生	戸倉先生 竹添先生	山下先生
参加生徒数	7名	5名	12名	7名	22名
参加生徒	生徒会	生徒会	希望者	生徒会	希望者

②万国博覧会記念基金事業

2019年4月、2019年度日本万国博覧会記念基金助成事業として「ネパールと日本の青少年によるグローバル交流プログラム」が採択されたことを受け、2019年6月より事務局兼プログラムコーディネーターとして、事業全体のコーディネート、企画、運営、ボランティアのマネジメントや招聘生徒のサポートを行った。事前の Web 交流にて、親睦を深めたネパールの生徒が、2019年11月に日本へ来日。日本の都市部と地方部の両方の社会環境にふれることで、都市と地方の格差の問題や、経済発展のみが社会成長の方向性ではないということを学ぶ機会を提供。日本の生徒にとっても、ネパールの生徒とともに生活を送ることによって、日々の生活の当たり前や物事や世界の捉え方が変化し、生徒や保護者、地域にとっての視野を広げることにつながった。

実施期間	2019年7月～2019年12月
対象地域	ネパール、徳島県、大阪府、京都府
参加者・人数	310名(国内220名、ネパール90名) うち、グローバルプログラムは日本人120名、ネパール6名
連携	徳島県上板町立高志小学校 立命館小学校、大阪高等学校 サンスカール小学校(ネパール)

■プログラム全体スケジュール

開催日	内容
2019年8月18日	グローバルプログラムの打ち合わせ
2019年9月30日	事前 Web 交流① 実施
2019年10月2日	事前 Web 交流② 実施
2019年11月11日～11月16日	グローバル交流プログラムの実施
2019年12月18日	事後 Web 交流会の実施
2019年12月14日・15日	Colorbath 展の開催

③周南市立富田中学校の立志式

2020年2月5日に山口県立周南市富田中学校の立志式にて、卒業生である椎木が中学2年生約300人とその保護者約100名に対して講演を行った。富田中学校を卒業した一人の卒業生として、なぜ海外とのつながりをもちながら活動をしているのか、その生き方や想い生徒に伝えてほしいという先生の呼びかけから実現したものだ。立志式当日には、椎木の講演だけではなく、ネパール・マラウイの2カ国とテレビ電話でつなぎ、Web交流を実施。英語を使いながら即興で質問をしたり、富中の伝統である「歌にのせて」という生徒会オリジナルソングを披露する機会を提供した。また、各国からのサプライズで「歌にのせて」をマラウイ・ネパールの生徒が日本語で披露されたときには、会場一番の拍手喝采が沸き起こった。どんなに遠い国でも、身近に感じ、自分の行動次第で誰とでもつながることができるということを、後輩たちに伝える機会となった。

日時	2020年2月5日(木)
場所	周南市立富田中学校
参加者・人数	中学2年生 約300名 保護者 約100名
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・講演「世界とつながり、みえたもの」 ・歌にのせての合唱披露 ・マラウイ、ネパールとのWeb交流 ・世界とつながる「歌にのせて」

④コーヒー事業

■概要

ネパール人の多くは農業従事者であるが、気候やインフラの整っていない環境では物流面での課題が多く、収入を向上させることが難しいという課題がある。そんな貧困地域の補助のため、質を高めたコーヒー産業で雇用創出と収入向上を目指し、ネパールの魅力を引き上げる支援を行っている。また、この事業をとおして先進国の人々が、「仕事とはなにか」「働くとは何か」「農業や食とは何か」を考え直すきっかけを提供し、持続可能なライフスタイルを提案していくことを目指す。

■詳細

専門家の派遣：2019年7月、2020年1月

研修を実施：2019年7月～11月

精製・焙煎工場の建設：2019年4月～

■連携先

在ネパール日本大使館

■成果

様々な現地行政機関や企業との連携により、専門家の派遣や品質向上のための技術指導研修、工場建設を行うことができた。現地の農家さんが中心となってコーヒーグループを設立し、地域のモデル農家グループが決まった。来年度は収穫に向けたトレーニングを行いつつ、精製から焙煎などの出荷にむけたプロセスや工場運営などの現地マネジメント強化を目指す。

(2) フィールドワーク事業

①マラウイフィールドワーク

■概要

グローバルに活躍できる人材の育成を目的とし、アフリカのマラウイに現地 10 日間滞在するフィールドワークを実施した。現地では都市部と農村部を訪れ、現地行政や国際機関、学校や現地 NGO の活動見学、ホームステイ体験等を行った。日本から離れたアフリカという異国の地で、国際協力のリアルな現場を体感し、現地の人との交流を深める中で、自分自身の生き方やキャリアを考えるきっかけを提供した。

■詳細

日時	2019年9月7日(土)～9月18日(水)
場所	マラウイ共和国・リロングウェ県、ムジンバ県
参加者・人数	大学生 3名、社会人 1名
連携	後援：独立行政法人国際協力機構 (JICA) 九州センター 現地協力：NPO 法人 ISAPH 広報支援：日本マラウイ協会

■成果

1. 少人数プログラムによる学びの深まりをデザイン

「これからのゼミで環境問題や食品ロスについて研究したいと思った」「アフリカに対して偏見をもっていたことに気づいた」「人生の価値観が変わった」「大学卒業後の進路ややりたいことがみつかった」など、これからの生き方やキャリア、参加者自身の興味関心を深める機会となった。

2. フィールドワーク後の次へと繋がる活動をサポート

帰国後の報告会には、参加者の大学の教授も参加。その後、大学の授業に招かれ、後援を行った。また、保護者の方も参加されたことによって、子どもから聞く話や、現地の人々の優しさなどを聞き、その成長を喜んでくれた。

3. 現地機関との連携による安全への考慮

現地の JICA マラウイ事務所や在マラウイ日本大使館とも連携し、安全対策ブリーフィングを参加者に実施した。現地に住んでいる日本人から直接、安全についての心構えを聞くことによって、危機管理の意識が増し、安全なプログラム運営を行うことができた。

■詳細

<現地スケジュール>

	曜日	内容
09/07	土	日本出発
09/08	日	リロングウェ現地集合 (AM1220空港ピックアップ)
09/09	月	プログラムブリーフィング 市場での仕事体験、日本大使館訪問
09/10	火	JICA訪問 保健省訪問
09/11	水	*移動：リロングウェ→ムジンバ ムジンバ散策、自炊体験
09/12	木	ISAPHのフィールド見学 (マニヤムラ) 農村ホームステイ (マニヤムラ)
09/13	金	ムジンバ県病院の訪問、ピースコーの活動見学 農村ホームステイ (マニヤムラ)
09/14	土	農村での仕事体験 学校訪問、生徒との交流
09/15	日	フリータイム・ソーラーボイラー運用テスト *午後移動：ムジンバ→リロングウェ
09/16	月	フリータイム、最終振り返り会
09/17	火	フリータイム リロングウェ出発 (AM12:30)
09/18	水	日本到着

②ソーラーボイラー事業

■概要

マラウイではまだまだインフラが整っていない地域が多く、お湯を沸かすために炭や薪を使用するため、森林伐採などの環境破壊が課題となっている。太陽光でお湯を沸かすことのできるソーラーボイラーを設置することによって、インフラの整っていない環境下でも自然にお湯をつくることができるため、地域コミュニティのヘルスセンターにおける医療的な活用や、日々の生活で煮炊きをするクッカーとしての役割を担い、現地の人の生活向上やマラウイの環境問題解決を目指す。

■詳細

ソーラーボイラーの設計：2019年6月～
 現地への設置、稼働の検証：2019年8月～
 ソーラーボイラー開発会議：2019年9月～

■成果

マラウイ渡航に向けてソーラーボイラーを改良したことによって、ムジンバ県の県病院に第一号を設置し、稼働の検証をさせることができた。より現地の人を使いやすく、また使用用途に合わせた改良をこれからも行い、現地医療や生活向上、環境課題解決のためにこれからも現地パートナーや日本の連携団体との協議を重ねながら、事業を展開していく。

(3) Colorbath カレッジ事業

① 福岡×マラウイフォーラム

■概要

マラウイやアフリカに関わる「具体的な次なるアクション」を生み出すことを目的とし、JICA九州センターと在日マラウイ大使館の共同主催イベントとしての開催運営サポートを行った。参加者同士がアフリカにおけるビジネスチャンスの創出や行政同士の姉妹都市連携などのアイデアを共有しあうことで、アフリカ・マラウイを身近に感じるきっかけをつくりあげていくイベントとなった。

■詳細

日時	2019年6月22日(土)
場所	Mekuruto Kurume (福岡県久留米市)
参加者・人数	約70名(中高生を含む学生、社会人：一般市民、民間企業職員、行政職員)
連携	独立行政法人国際協力機構(JICA)九州センター 在日マラウイ大使館 Low-Low's Café、Ten to Ten
内容	<ul style="list-style-type: none">・駐日マラウイ大使館の副大使による基調講演・マラウイとリアルにつながるWeb交流・パネルディスカッション・各ブースによるテーマごとの分科会

■成果

駐日マラウイ副大使による講演や、現地とつなぐWeb交流を行ったことにより、「遠い国の未知なるアフリカ」をより身近に感じることができた。また、実際にマラウイやアフリカで海外事業を展開している民間企業の方から、アフリカとのビジネスについて参加者とのディスカッションを交えたり、アイデアを出し合うことによって、新たなビジネスのカタチを創出し、きっかけをつくることができた。

② 香りという日常

■概要

「見えないものをみる」というコンセプトのもと、目には見えない“香り”をコンセプトにイベントを開催した。香りを言葉で表現してみたり、香りから連想されるイメージを共有して、それぞれの感性や個性をより磨いていくイベントとなった。

■詳細

日時	2019年8月25日
場所	JUSO コワーキング(大阪府大阪市)
参加者・人数	8名
内容	<ul style="list-style-type: none">・それぞれのイメージに合うオリジナルの香水を作成・香りから連想されるイメージの表現ワーク・香りの歴史

■成果

当たり前で気づかない日常、に目を向けるきっかけをつくることができた。香りというありふれた日常の中にも、奥深さや個性、人によつての認識の違いを感じることができ、世界の見え方を彩るきっかけとなった。

③ Colorbath 展

■概要

2019年1年間の活動をパネルで展示して、プロジェクトを振り返り、翌年につなげるための展示会を行った。プロジェクトで協同してきた方々に参加していただき、そのときの想いや背景を共有してもらう場を設けることで、人と人とのつながりをより深いものにするを目的とした。

■詳細

日時	2019年12月14, 15日
場所	JUSO コワーキング (大阪府大阪市)
参加者・人数	12名
内容	・2019年の活動写真パネルの展示 ・デザイナーから見る Colorbath セッション ・税理士から見る Colorbath セッション

■成果

近畿圏内のみならず、徳島県や群馬県、東京都や岩手県からも参加していただき、全員が顔を合わせてじっくりと話を深めることができた。Colorbath 展での交流が、それぞれの方のお仕事や生活にとってプラスの刺激となったとコメントを頂いた。今後も毎年開催を行う予定である。

(4) スポーツ交流事業

①日本人トレーナーのネパール派遣

■概要

スポーツを通じた国際交流、人材育成支援として、ネパールのオリンピック協会と協定を締結し、連携したスポーツ支援活動を行った。ネパールのオリンピック出場種目の中で、メダル獲得に最も近いと言われるテコンドー、陸上競技に対して、トップアスリートの技術指導のために日本からトレーナーを派遣し、ネパールにてトレーニングを行った。

■詳細

日時	2019年7月9日～2019年7月11日
場所	ネパールオリンピック協会 (ネパール)
参加者・人数	テコンドー選手 35名 陸上競技選手 20名 ネパールオリンピック協会指導者 10名
指導内容	・体幹トレーニング ・関節の使い方、ケアの仕方 ・バランスのとり方、等

■成果

東京オリンピック 2020 への出場に向けて、アジアでの大会を勝ち抜いていかなければならない状況の中で、選手のモチベーションも高めることができた。指導内容や指導の仕方に対して、オリンピック協会の指導者らも熱心に学び吸収してくださり、今後も継続的な関わりを持ちたいと強くコメントを頂いた。スポーツを通して、夢や希望を与えていくために、今後もサポートを継続する。

②ネパール選手を日本に招聘

■概要

ネパールでは、トレーニングの設備や指導者の質が高いとは言えず、強化につながるトレーニング自体が行いにくい課題がある。選手、及びコーチの旅費や滞在費、食費等を補助し、日本で質の高いトレーニングを受けることができるように支援を行った。日本チャンピオンである大東文化大学の全面的な協力を得ることができ、2週間強化トレーニングを行った。

■詳細

日時	2019年10月20日～2019年11月3日
場所	大東文化大学など（東京都）
参加者・人数	テコンドーネパール代表選手2名 テコンドー代表コーチ1名 ※選手のうち1名が Deng 熱にかかり、来日できたのは選手1名、 コーチ1名のみ
連携先	大東文化大学（テコンドーの日本大学選手権で5連覇）
内容	大東文化大学テコンドー部の練習に参加し、身体的、及び技術的な 強化トレーニングに励んだ

■成果

レベルの高い選手同士でのトレーニングや練習試合も行うことができ、ネパール代表選手の強化につながった。加えて、大東文化大学の選手においても、オリンピックを目指す代表選手とのトレーニングは大きな刺激となった。スポーツを通して、人と人とのつながりも生まれた。

(3)講演等

① 立命館大学・経営学部

日時	2019年5月24日
場所	立命館大学・茨木キャンパス
参加者・人数	約200名（1年生～4年生）
内容	・ビジネスと社会貢献活動の両立 ・国際協力とビジネスの両立

② 関西学院大学

日時	2019年5月7日
場所	関西学院大学・三田キャンパス
参加者・人数	約30名（1年生～2年生）
内容	・NPOの社会における役割 ・ソーシャルイノベーション ・社会貢献とビジネス

③ 大阪女学院大学

日時	2019年12月21日
場所	大阪女学院大学
参加者・人数	約10名（国際協力ゼミ生）
内容	・アフリカ、ネパールでの活動 ・国際協力とビジネスの両立

(法第28条第1項「前事業年度の計算書類（貸借対照表）」)

令和元年度 貸借対照表

令和2年3月31日現在

特定非営利活動法人Colorbath

(単位：円)

科目	金額	
I 資産の部		
1. 流動資産		
現金預金	3,134,667	
未収金	0	
流動資産合計		3,134,667
2. 固定資産		
(1) 有形固定資産		
車両運搬具	0	
什器備品	0	
有形固定資産計	0	
(2) 無形固定資産		
ソフトウェア	0	
無形固定資産計	0	
(3) 投資その他の資産		
	0	
投資その他の資産計	0	
固定資産合計		0
資産合計		3,134,667
II 負債の部		
1. 流動負債		
未払金	0	
前受金	1,440,000	
流動負債合計		1,440,000
2. 固定負債		
長期借入金	104,988	
退職給付引当金	0	
固定負債合計		104,988
負債合計		1,544,988
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産		501,716
当期正味財産増減額		1,087,963
正味財産合計		1,589,679
負債及び正味財産合計		3,134,667

(法第28条第1項「前事業年度の財産目録」)

令和元年度 財産目録
令和2年3月31日現在

特定非営利活動法人Colorbath
(単位：円)

科目	金額	
I 資産の部		
1. 流動資産		
現金預金		
手許現金	0	
住信SBIネット銀行	2,008,740	
京都中央信用金庫	1,125,927	
未収金	0	
流動資産合計		3,134,667
2. 固定資産		
(1) 有形固定資産		
什器備品		
有形固定資産計	0	
(2) 無形固定資産		
ソフトウェア		
無形固定資産計	0	
(3) 投資その他の資産		
投資その他の資産計	0	
固定資産合計		0
資産合計		3,134,667
II 負債の部		
1. 流動負債		
未払金		
前受金		
(株)Action Pro	440,000	
一般(社)アフリカ協会	1,000,000	
預り金		
流動負債合計		1,440,000
2. 固定負債		
長期借入金		
吉川 雄介	104,988	
固定負債合計		104,988
負債合計		1,544,988
正味財産		1,589,679

令和元年度 活動計算書
平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

特定非営利活動法人Colorbath
(単位：円)

科 目	特定非営利活動に 係 る 事 業	その他の事業	合計
I 経常収益			
1 受取会費			
正会員受取会費	0		
賛助会員受取会費	0		
受取会費計	0		
2 受取寄附金			
受取寄附金	0		
受取寄付金計	0		
3 受取助成金等			
受取助成金	1,886,900		
受取助成金等計	1,886,900		
4 事業収益			
国際交流事業	1,897,870		
スポーツ交流事業	1,368,920		
事業収益計	3,266,790		
5 その他収益			
受取利息	14		
その他収益計	14		
経常収益計			5,153,704
II 経常費用			
1 事業費			
(1)人件費			
給料手当	0		
福利厚生費	0		
人件費計	0		
(2)その他経費			
旅費交通費	2,262,494		
接待交際費	18,579		
消耗品費	34,002		
新聞図書費	0		
修繕費	0		
車両費	0		
広告宣伝費	0		
外注費	890,636		
会議費	239,144		
雑費	299,050		
減価償却費	0		
その他経費計	3,743,905		
事業費計			3,743,905
2 管理費			
(1)人件費			
役員報酬	0		
給料手当	0		
福利厚生費	0		
人件費計	0		
(2)その他経費			
租税公課	3,751		
水道光熱費	0		
通信運搬費	24,966		
事務用品費	110,723		
諸会費	5,000		
支払手数料	131,323		
保険料	13,623		
賃借料	32,450		
減価償却費	0		
その他経費計	321,836		
管理費計	321,836		321,836
経常費用計			4,065,741
当期経常増減額	0		1,087,963
III 経常外収益			
経常外収益計	0		
IV 経常外費用			
経常外費用計	0		
当期収支差額			1,087,963
前期繰越正味財産額			501,716
次期繰越正味財産額			1,589,679